

基幹作目とその概要

★ 果 樹

瀬戸内特有の温暖な気候をいかし、全国有数のかんきつ産地を形成しています。露地栽培は、宮内伊予柑、うんしゅうみかんが中心ですが、「せとか」「愛媛果試第28号」「カラ」などが特産かんきつとして導入されています。また、温室みかんや中晩柑のハウス栽培は県内有数の産地です。一方、落葉果樹では、キウイフルーツをはじめ、ぶどう、くり等が特産となっています。

●いよかん

「宮内伊予柑」発祥の地である松山市平田町を中心に生産され、栽培面積は951haです。品質銘柄ともに日本一の評価を受けており、「蔵出し」「弥生紅」などの特選品が有名です。



基幹品目の宮内伊予柑

●うんしゅうみかん

島しょ部を中心に448ha栽培され、それぞれの産地の特色をいかして9月下旬から2月にかけて出荷されます。

●温室みかん

伊予市、砥部町を中心に11ha栽培されています。かんきつ類の端境期の6～9月に出荷・販売されています。近年、ハウスの3重被覆など省エネ化が進められています。



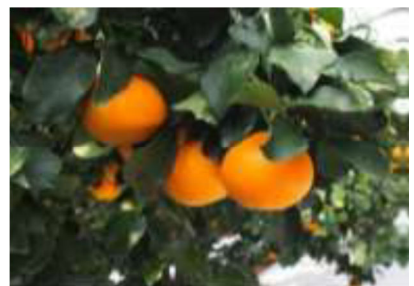
収穫前の温室みかん

●せとか

高糖度で食味良好なかんきつで、1月下旬から施設栽培物が、3月には露地栽培物が出荷されています。沿岸部、島しょ部を中心に111ha栽培され、日本一の産地を形成しています。

●愛媛果試第28号（紅まどんな）

本県が育成した新品種で、ゼリーのような食感が特徴的です。年末贈答用に最適なかんきつで、特に管内で生産されたものは、消費者の方々からも高い評価を得ています。栽培面積は145haで、屋根かけ等の施設栽培で高品質化を進めています。



大好評の紅まどんな

●カラ

春（4～5月）に旬を迎えるかんきつで、みかんに近い外観と濃厚な味わいが特徴です。松山市の島しょ部を中心に77haの栽培面積があり、日本一の「カラ」の産地となっています。

●キウイフルーツ

落葉果樹の中心品目として175haで栽培されています。 Hayward が中心ですが、ゴールドキウイがJGAP認証やゼスプリ社との契約栽培により高価格で取引されています。



高品質なゴールドキウイ

●くり

県内の栽培発祥の地である伊予市中山町を中心に345ha で栽培され、全国トップクラスの銘柄「中山栗」産地が形成されています。

江戸時代には、将軍に献上して賞賛された歴史があります。

●びわ

伊予市唐川地区や松山市興居島地区等で露地栽培が行われています。栽培面積は32ha で、気象・土壌条件をいかした高品質の果実が生産されています。

●ぶどう

松山市伊台地区を中心に銘柄産地を築いています。中山間地特有の気象条件をいかして70 年以上の歴史を誇っており、栽培面積は25ha です。

※栽培面積は県農産園芸課調べ（平成28 年産果樹統計資料及び果樹栽培状況調査）